

アメリカ

チェメキタ コミュニティカレッジでの留学を終えて

現代社会学部 4年

吉村英晃

アメリカ留学に行く前は、正直不安ばかりでした。LEO の授業で英語が聞きなれているとは言え、自分の英語に自信がなかったからです。ただアメリカに行けば英語を絶対に使わなければいけない環境に当然なるわけですから、自分さえ心を開いて積極的になれば大丈夫だと考え方を換え、少し不安は解消されました。とは言え知らない世界に身を置くわけですから、恐怖心というのは当然出てきました。ただそこは自分の順応性を信じていました。特に食に好き嫌いがあるわけでもなく、人と話すことに対し一度も「苦」と感じたことがないからです。またこの大学には出発前、準備する時間も長く設けられていて、先に行っている人から話も聞け、自分の中に強みを作ってアメリカへ向かうことができました。そういう面では恵まれた環境でアメリカ留学へ行くことができたと思っています。

実際、アメリカに到着してすぐ不安は打ち消され、あっという間に 1 ヶ月が過ぎました。2 ヶ月目からは、授業内容も聞き取れるようになりました。LEO の授業と似ていて溶け込みやすく、また日本人がいない中、必死で英語を使いコミュニケーションをとりました。クラスメイトも毎回違う顔ぶれで、毎日異国の文化に触れ、友達も世界各国にできた気分がとても楽しかったです。私の中の世界がどんどん広がるのがわかりました。

そして何より私が留学を決意したもう 1 つの理由は、「自分を変える」ということでした。やるべきことの自覚があるのに、目先のことにとらわれて楽しいことを優先させていた私でしたが、留学という環境を変えたことは、「今自分は何をすべきなのか」を考える機会を与えてくれました。「自由な国」と思われがちなアメリカですが、行って気づきました。アメリカにはきちんとしたルールがあり、そのルールを「自主的に守る」ことでその自由を叶えているのだと感じました。自分に置き換えた時、ルールに縛られずやってみたいと思うことに積極的に取り組めば、チャンスは広がるという事を身を持って感じました。

この感覚が私にプラスされたことで、残りの学生生活がより一層充実したものになると確信しています。

今回の交換留学では、安藤先生はじめ、国際交流センターの方々、チェメキタでお世話になった方々、アメリカで出会った全ての方々に、私に成長のチャンスを与えてくださったことに、感謝します。ありがとうございました。





